

【令和3年度 社会科授業改善推進プラン】

社会科で身に付けさせたい力・目指す生徒像

社会科で身に付けさせたい力は、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究し解決する活動を通して、広い視野に立ちグローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成に必要な公民としての資質や能力である。そのためには、社会に対する関心を高めるとともに、様々な資料等から適切に必要な情報を読み取り、社会的事象について多面的・多角的に考える力が必要である。そこで、今年度も資料から読み取った内容をもとに考察し、ふさわしい用語や言葉を使ってまとめたり、発表したりする授業に重点的に取り組む。また、ふさわしい用語や語句を使って自分の意見を表現できるように、知識・理解の定着を図る。

学習状況及び課題

	1 学年	2 学年	3 学年
学習状況	意欲的に授業に臨むことができ、毎授業集中して取り組むことができている。一方、自分の考えを文章化するとき、問いに対して正答できていなかったり、自分の考えをまとめることが苦手な生徒が一定数いる。	主体的に授業に参加することができている。社会的事象への興味・関心も高い生徒が多い。一方で、今年度より導入された一人一台端末の活用が不得手な生徒も一定数いる。	受験を意識し、集中して学ぶことができており、自分の考えをまとめる力が高い生徒が多い。一方で、授業に対して受け身であり、自分で考えたものを表現することができない生徒が一定数いる。
指導上の課題	話し合い活動などが制限されており、意見を共有し、深い学びにつなげる手立てが確立されていないことが課題である。	感染症拡大の影響により、級友と対話する場面が制限されていることが課題であり、思考・判断・表現の力をどのように高めていくかを検討していくことが課題である。	一方的な授業で、知識を押さえる授業になっており、考えを表現する時間が少ないことが課題である。

改善プラン

	1 学年	2 学年	3 学年
学習面	- 一人一台端末の活用で意見を共有する手立てを確立し、自分の考えを表現する力を高めていく。 - ワークを活用して、知識を増やし、単元ごとにテストを実施し、知識の定着を図る。	- 一人一台端末を活用して、プレゼンテーション資料を作成し、発表する時間を設けることで、資料活用の技能や思考・判断・表現の力を高めていく。 - 定期的な小テストや確認テストへの学習を進めることで、知識の定着を図る。	- 一人一台端末を用いて、自分の考えを表現する場面を設け、力を高めていく。 - ワークを活用して、知識を増やし、単元ごとにテストを実施し、知識の定着を図る。
指導面	- 一人一台端末を用いて意見を共有する手立てを確立し、他者の意見をもとに自分の意見を深めさせるようにする。 - 生徒との対話を通して、生徒主体の授業を展開する。	- 一人一台端末を指導場面に効果的に活用していく。 - 生徒のプレゼンテーション活動に対するフィードバックを丁寧に行い、そこで見出された課題について、PDCAサイクルで授業を改善していく。	授業の中で、一人一台端末を用いて、自分の考えを表現する場面を増やし、対話を通して授業を展開することができるようにする。

評価

- ①授業アンケート結果による達成度評価
- ②定期テスト観点別学習状況による評価

